

自己肯定感と自己有用感を育む学級経営
～個別最適な学びと協働的な学びに焦点を当てて～

大崎町立菱田小学校 教諭 岩元 愛美

目 次

1	はじめに	1
2	研究主題	1
3	研究主題設定の理由	1
	(1) 現代の教育動向から	
	(2) 本校の研修テーマから	
4	研究の仮説	2
5	研究の構想	3
6	研究の実際	3
	(1) 児童の実態把握	
	(2) 仮説1の検証「一人一人が学級への所属感を深められる環境づくり」	
	ア 目標の設定	
	イ 児童主体の係活動	
	ウ 一人一人が主役になる学校行事	
	エ 一人一人のよさを認め合う場づくり	
	(3) 仮説2の検証「授業における個別最適な学びと協働的な学びの充実」	
	ア 複式学年別指導(国語科)における個別最適な学びと協働的な学び	
	イ 同単元指導(体育科)における個別最適な学びと協働的な学び	
7	研究の成果と課題	8
	(1) 研究の成果	
	(2) 今後の課題	
8	おわりに	9

〔引用・参考文献〕

・小学校学習指導要領	文部科学省	平成29年
・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～	文部科学省	令和3年
・生徒指導リーフ Leaf. 18 「『自尊感情』？それとも、『自己有用感』？」	国立教育政策研究所	平成27年
・小学校学習指導要領解説【国語編】【体育編】	文部科学省	平成29年
・生徒指導リーフ Leaf. 3S 「発達障害と生徒指導～自尊感情への配慮～」	国立教育政策研究所	令和2年
・令和2年度版人権教育指導資料「仲間づくり～自尊感情を育むために～」	鹿児島県教育委員会	令和2年
・指導資料複式教育60号「予測困難な時代を生きる子供たちを育てる 複式学習指導－自ら学び自ら考えるガイド学習への転換－」	鹿児島県総合教育センター	令和2年
・令和4年度大隅学力向上リーフレット	大隅教育事務所	令和4年

1 はじめに

今年度、本校では初めての複式学級が始まり、児童は新しい学校生活に対して、期待と不安を抱きながら新年度を迎えた。担任として、児童の不安な気持ちを、安心に変えたいと強く思った。

そこで、現代の教育動向と児童の実態を踏まえた上で、児童一人一人の自己肯定感や自己有用感を育むことを大切に学級経営に取り組むことにした。



2 研究主題

自己肯定感と自己有用感を育む学級経営
～個別最適な学びと協働的な学びに焦点を当てて～

3 研究主題設定の理由

(1) 現代の教育動向から

学習指導要領の前文には、「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」(小学校学習指導要領 平成29年告示 P.15)と記述されている。また、令和の日本型学校教育が目指すものとして「学校における授業づくりに当たっては、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の要素が組み合わさって実現されていくことが多いと考えられる。各学校においては、教科等の特質に応じ、地域や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。」(「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ P.19)と記されている。

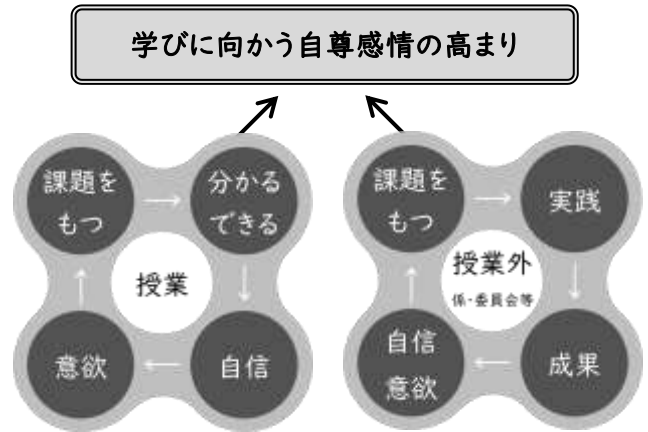
これからの時代を生き抜く児童にとって、自分のよさや可能性に気付くことは欠かせない。自分のよさや成長を認められる手立てを充実させることが、一人一人の自己肯定感を育むことにつながり、学級の仲間とよさを認め合う喜びを感じられる場面の工夫が、一人一人の自己有用感を育むことにつながる。また、個別最適な学びの中で得たことやそれぞれの個性を協働的な学びに生かすことが重要である。児童が「仲間と関わるのが楽しい」、「人の役に立ちたい」という実感を得ることができれば、自己有用感が高まり、最終的には児童が安定した状態で過ごせることで自己肯定感も高まる。

以上を踏まえて、児童一人一人の自己肯定感と自己有用感を育むためには、「一人一人が学級への所属感を深められる環境づくり」、「授業における個別最適な学びと協働的な学びの充実」に取り組むことが大切だと考えた。

(2) 本校の研修テーマから

本校の今年度の研修テーマは、「学びに向かう自尊感情を高める指導についての研究」である。様々な思いを抱えて登校している児童が落ち着いて学習に臨むことができるように、児童の自尊感情を高めることができるような指導の工夫について研修を深めたいという思いから、今年度のテーマが設定された。右の図は、学びに向かう自尊感情の高まりに必要なことを、授業内と授業外の2つの視点から図式化したものである(右図)。

授業内においては、昨年度、取り組んだユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりや自尊感情を高めるために有効な指導の工夫について実践を重ねている。授業外では、校内環境の整備や特別活動、あいさつなど様々な場面において、自尊感情を高めるための工夫に取り組んでいる(表1)。



授業における工夫	授業外(係・委員会活動等)における工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題との出合わせ方 ・ 課題の適正化(児童の実態に合った) ・ 学習過程の工夫・提示 ・ 教具・教材・ICT等の活用 ・ 個に応じた「合理的配慮」の確認 ・ 授業のユニバーサルデザイン化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共感的理解を大切にした関わり ・ 創造的な児童会活動の重視 ・ 掲示物等、校内環境の整備 ・ 一人一人が輝く学校行事の創意工夫 ・ 連携による評価 ・ キャリアパスポートによる自己評価

【表1 自尊感情の高まりを目指すための手立て】

以上を踏まえて、「一人一人が学級への所属感を深められる環境づくり」においては、特に「掲示物等、校内環境の整備」、「共感的理解を大切にした関わり」、「一人一人が輝く学校行事の創意工夫」、「連携による評価」の4つに重点を置きたい。また、「授業における個別最適な学びと協働的な学びの充実」においては、「学習過程の工夫・提示」、「教具・教材・ICT等の活用」、「授業のユニバーサルデザイン化」を意識して取り組み、児童一人一人の自己肯定感と自己有用感を育むことにつなげたい。

4 研究の仮説

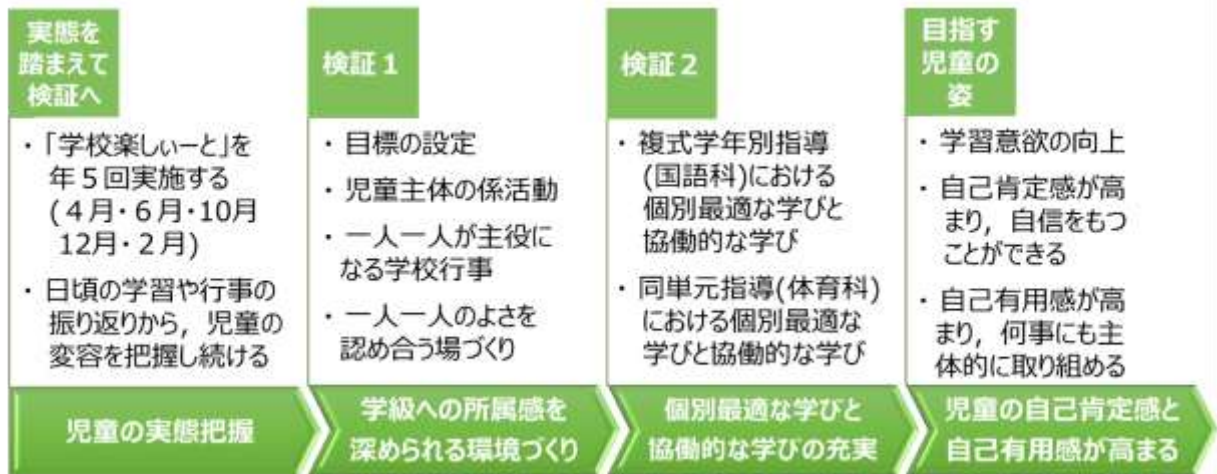
仮説1

一人一人が学級への所属感を深められる環境づくりによって、「個別最適な学びと協働的な学びを実現できる学級」にできるのではないかと。

仮説2

授業における個別最適な学びと協働的な学びの充実によって、「児童の自己肯定感と自己有用感を育むこと」ができるのではないかと。

5 研究の構想



6 研究の実際

(1) 児童の実態把握

本学級は3年生4人、4年生9人の3・4年複式学級である。4月下旬に、3・4年生を対象に1回目の「学校楽しいーと」を実施した(表2)。両学年とも、友達や教師との関係は良好である一方、自己肯定感や心身の状態を改善するためのアプローチが必要である。

観点	3年生の得点	4年生の得点
友達との関係	14.50	14.89
教師との関係	14.75	14.11
学習意欲	13.25	13.56
自己肯定感	12.00	11.89
心身の状態	12.75	12.56
学級集団における適応感	13.75	13.44

【表2 4月の結果】

また、前年度に比べ、学習意欲や学級集団における適応感が下降していることが気になり、児童に記述式で不安なことを調査した。その結果、複式学級での学校生活に慣れていないことが大きな原因となっていることが分かった。本学級の強みである「友達や教師との関係のよさ」を生かしながら、「一人一人が所属感を深められる環境づくり」、「授業における個別最適な学びと協働的な学びの充実」の実践を進めることにした。

(2) 仮説1の検証「一人一人が学級への所属感を深められる環境づくり」

ア 目標の設定

(ア) 学級目標の決定

最初の学級活動で、「1年後、どんな学級になりたいか」について話し合った。「最高の3・4年生」に決まり、「さ」支え合い、「い」一生懸命、「こ」コツコツがんばる、「う」うれしさいっぱい、という願いを込めた学級目標になった。また、「3月に自分の成長を知るために、手形を飾りたい」と児童から希望があり、学級目標にそれぞれ手形を押し、名前を書き込んだ(写真1)。



【写真1 学級目標】

(イ) 個人目標の設定

「最高の3・4年生」になるために、自分ができるようになりたいことを考えた。なりたい自分の姿を、いつでも確認できるように、カードに目標を書き掲示した(写真2)。



【写真2 年間目標(1年後のできる自分)】

各学期の目標を考えるときには、「1年後のできる自分」の掲示物を確認しながら、具体的な目標を立てる児童が多く見られた。また、行事を仲間と一緒に頑張りたいという内容のものもあった。仲間と一緒に目標を達成することを意識しやすくなるように、学級目標の横に各学期の目標を掲示した(写真3)。



【写真3 各学期の目標(2学期)】

イ 児童主体の係活動

(ア) 学級に必要な係を話し合いで決める

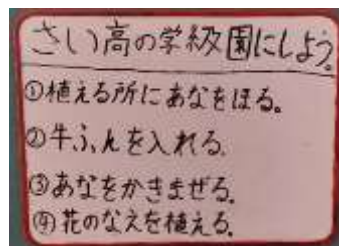
1学期の係活動を振り返り、2学期の係活動を決める際には、個人、グループ、学級全体と段階を経て考えを練り上げることができた(写真4)。また、自分たちで決めた係ということもあり、1学期よりも意欲的に係活動に取り組めるようになった。



【写真4 2学期の係決め(板書)】

(イ) 児童が主体となる学級園づくり

生き物係の児童を中心に、花の植え替えを行った(写真5・写真6)。係以外の児童が、ホワイトボードのよさや説明の分かりやすさを褒めてくれたことで、係の児童はとても嬉しそうな様子だった。



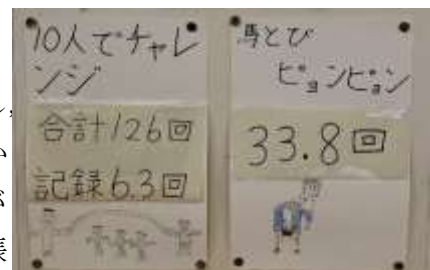
【写真5 やることボード】



【写真6 進行の様子】

(ウ) 児童主体で「チャレンジかごしま」に挑戦

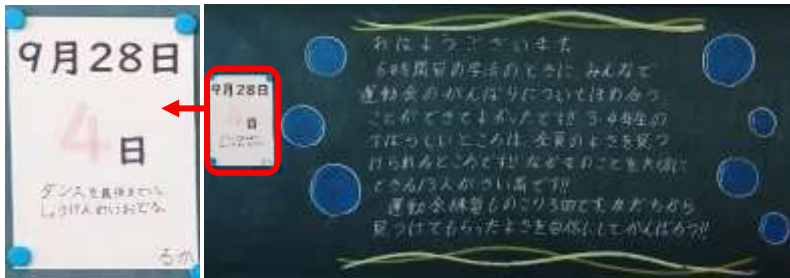
年度当初に、チャレンジかごしまの種目を全て紹介し、体育・レク係が中心となって、どの種目を頑張りたいか話し合った。決まった種目に意欲的に取り組み、記録が更新される度に、新しい掲示物を作成し、みんなで頑張りを分かち合うことができた(写真7)。



【写真7 チャレンジかごしまの掲示】

ウ 一人一人が主役になる学校行事

運動会に向けて、学級でメッセージカレンダーを作成した。各日のカレンダーは朝の黒板に掲示し、カレンダーを書いた児童が朝の会で紹介した(写真8)。また、持久走大会では、児童から「全員が持久走大会を頑張ってよかったと思えるようにしたい」という提案があった。学級で話し合いを行い、手作りメダルを友達と贈り合った(写真9)。どちらの行事においても、一人一人が達成感を得ることができ、更に学級で一体となる心地よさや所属感を味わうことができた。



【写真8 運動会当日までのメッセージカレンダー】



【写真9 手作りメダル】

エ 一人一人のよさを認め合う場づくり

(ア) 毎日のよさを喜び合い認め合う

「毎朝の黒板メッセージ」では、登校後にメッセージを読んだ児童が安心した気持ちで一日を始めることができるように、前日に児童が頑張っていたことを温かく褒め続けた(写真10)。



【写真10 黒板メッセージ】

帰りの会の「ほめほめタイム」では、友達や学級全体のよかったところを発表し、みんなで認め合った。また、日直が発表したものの中から一つ選んで、ハートカードに記入し、よさを振り返ることができるように掲示した(写真11)。



【写真11 ほめほめカード】

(イ) 自分の成長やよさを実感する

「運動会キラキラカード」には、運動会練習前、本番前、本番後の三段階で自分の思いを綴るようにした。また、成長をより実感することができるように、家族や友達、担任も温かいメッセージを書いた(写真12)。

「2学期がんばりツリー」においても、友達や家族、担任と一緒に2学期の成長やよさを認めた(写真13)。



【写真12 運動会キラキラカード】

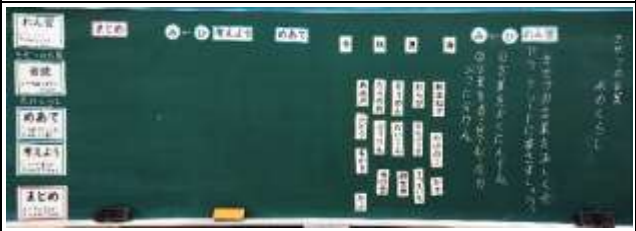
















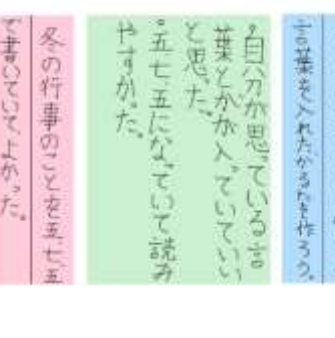


【写真13 がんばりツリー】

(3) 仮説2の検証「授業における個別最適な学びと協働的な学びの充実」

ア 複式学年別指導(国語科)における個別最適な学びと協働的な学び

第3学年「きせつの言葉 冬のくらし」、第4学年「季節の言葉 冬の楽しみ」の授業を同時導入同時終末で行った。複式学年別指導の授業では、「ずらし」や「わたり」を意識して授業を設計することもあるが、今回のように同時導入同時終末の授業を行うことで、両学年ともに児童の思考の流れに沿った学習ができる。全ての児童が見通しをもちながら、学習に取り組むことができるように、授業前に学習の流れを提示した。個別最適な学びの場面と協働的な学びの場面においては、各学年の実態に応じて手立てを工夫し、児童のよさを生かすことを心掛けた。また、終末の振り返りでは、異学年間での協働的な学びの場面を取り入れた。

<p>第3学年の児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の学習に、意欲的に取り組める。 ・自分で学びを進めることが好きである。 	<p>第4学年の児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語に対して、苦手意識がある児童が多い。 ・安心感を得ることで、主体的に取り組める。
<p>学習前の板書(第3学年)</p>	<p>学習前の板書(第4学年)</p>
	
<p>主な学習活動(第3学年)</p>	<p>主な学習活動(第4学年)</p>
<p>1 黒板に書かれている問題を読み、ワークシートを使って、前時の学習を振り返る。</p>  <p>個別最適な学び ◎振り返りの問題を多く準備することで、時間いっぱい問題と向き合い続けられる。</p> <p>2 黒板を使って、全員で前時の学習を振り返る。</p>  <p>協働的な学び ◎児童が自分たちで担当する問題を決めることで、自分の役割を意識しながら、学習に取り組める。</p> <p>3 本時の学習課題を教師と一緒に考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>冬を感じる文を書くとき、どんなことに気をつけて書いたらよいのだろうか。</p> </div>  <p>4 本時の学習の進め方を確認する。</p>	<p>1 電子黒板に提示されている問題を読み、タブレットで、前時の学習を振り返る。</p>  <p>個別最適な学び ◎タブレットで、簡単に取り組める問題にすることで、全員の学習意欲が高まる。</p> <p>2 ペアで考えを伝え合い、前時の学習を振り返る。</p>  <p>協働的な学び ◎ペア活動によって、質問をしやすくなり、分からないことを解決しようと、粘り強く学習に取り組める。</p> <p>3 本時の学習課題を自分たちで考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>冬のかるたを作るとき、どんなことに気をつけて書いたらよいのだろうか。</p> </div>  <p>協働的な学び ◎自分たちで、めあてを立てることで、授業の終末まで、めあてを意識することができる。</p> <p>4 本時の学習の進め方を確認する。</p>
<p>過程</p> <p>つかむ・見通す</p>	

<p>5 冬を感じる文を書く。</p>  <p>個別最適な学び ◎一人で考える時間をしっかり確保することで、自分の考えと向き合える。</p> <p>6 冬の文を読み合う。</p> <p>7 冬の本を書くときに、気を付けるとよいことについて考える。</p>  <p>個別最適な学び ◎本時のめあてに立ち返ることで、本時のゴールを意識して、考えを記述できる。</p>	<p>深める</p>	<p>5 冬のかるたを作る。</p>  <p>個別最適な学び ◎ペアの友達が横にすることで、困ったときに質問ができ、安心して学習ができる。</p> <p>6 かるたを読み合う。</p> <p>7 冬のかるたを作るときに、気を付けるとよいことについて考え、ペアで話し合う。</p>  <p>協働的な学び ◎個人で考えた後に、ペアで話し合うことで、全員が安心して、自分の考えを記述できる。</p>
<p>8 それぞれが考えたことを基に、本時のまとめをする。</p> <p>9 3・4年合同で、本時の学習を振り返る。</p>  <p>異学年間の協働的な学び ◎3年生の発表を聞いた4年生が、3年生の作品のよいところを伝えてくれることで、3年生の自信につながる。</p>	<p>振り返る・生かす</p>	<p>8 ペアで話し合ったことを基に、本時のまとめをする。</p> <p>9 3・4年合同で、本時の学習を振り返る。</p>  <p>異学年間の協働的な学び ◎3年生に分かりやすく伝えたいという気持ちが強く、同学年のみで行う発表よりも、更により発表ができる。</p>
<p>学習の成果 振り返りパズルより(第3学年)</p>	<p>学習の成果 学習ノートより(第4学年)</p>	
 <p>個別最適な学び ◎ダイヤモンド・サイクルを活用し、複数の視点で振り返ることで、自分の学習を調整しようとする、自己調整力を育むことができる。</p>	 <p>個別最適な学び ◎毎時間、自分なりのまとめを書き続けることで、まとめの場面においても、思考力や表現力を育むことができる。</p>	
<p>学習後の板書(第3学年)</p>	<p>学習後の板書(第4学年)</p>	
		

イ 同単元指導(体育科)における個別最適な学びと協働的な学び

第3・4学年「跳び箱運動」では、「自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫すること」、「運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたりすること」の2つを柱に、個別最適な学びの場と協働的な学びの場を工夫した。

過程	主な学習活動
つかむ・見通す	<p>1 場の準備，準備運動をする。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どうしたら上手に，開きやくとびができるだろうか。</p> </div> <p>3 本時の自分のめあてを考え，タブレットに入力する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>開きやくとびを上手にするためには、どうしたらよいのだろうか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>開きやくとびのコツをさがそう。</p> </div> </div> <p>個別最適な学び ◎自分のめあてをもつことで，自分の力に合わせて，主体的に学習に取り組める。</p> <p>協働的な学び ◎グループの友達が，できるようになりたいことが視覚的に分かり，友達に助言がしやすくなる。</p> <p>4 本時の学習の進め方を確認する。</p>
挑戦する	<p>5 自分の課題に応じた場を選び，工夫して練習する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">  <p>個別最適な学び ◎自分のめあてを設定したことで，前向きな気持ちで，主体的に練習に取り組める。</p> </div> <div style="width: 30%;">  <p>協働的な学び ◎見付けたコツを，動画と文字でまとめ共有する。友達の役に立ちたいという気持ちが高まる。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;">  <p>協働的な学び ◎タブレットで動画を撮影し，友達と改善点を探すことで，粘り強く学習に取り組める。</p> </div> <div style="width: 30%;">  <p>個別最適な学び ◎友達が見付けたコツが書かれているヒントカードを見て，自分に必要な情報を得ることで，すぐに練習に生かせる。</p> </div> </div>
振り返る	<p>6 本時の学習を振り返り，自分のまとめをタブレットに入力する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>開きやくとびを上手にするためには、どうしたらよいのだろうか。</p>  <p>しっかり足を伸ばして前見てとぶ 足を大きく広げてとぶ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>開きやくとびを美しくするためには、どうすればよいのだろうか。</p>  <p>とんだ後にきれいに止まる。</p> </div> </div> <p>個別最適な学び ◎自分のめあてに対して，まとめをすることで，それぞれが1時間の自分の成長を実感することができる。</p> <p>協働的な学び ◎一人一人のまとめを，全体のまとめにつなげることで，全員で目標を達成できた喜びを味わうことができる。</p> <p>7 自分のまとめを発表し，本時のまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>いきおいよく，遠くに手をつき，足を大きく広げてとぶ。</p> </div> <p>8 整理運動をし，片付けをする。</p>

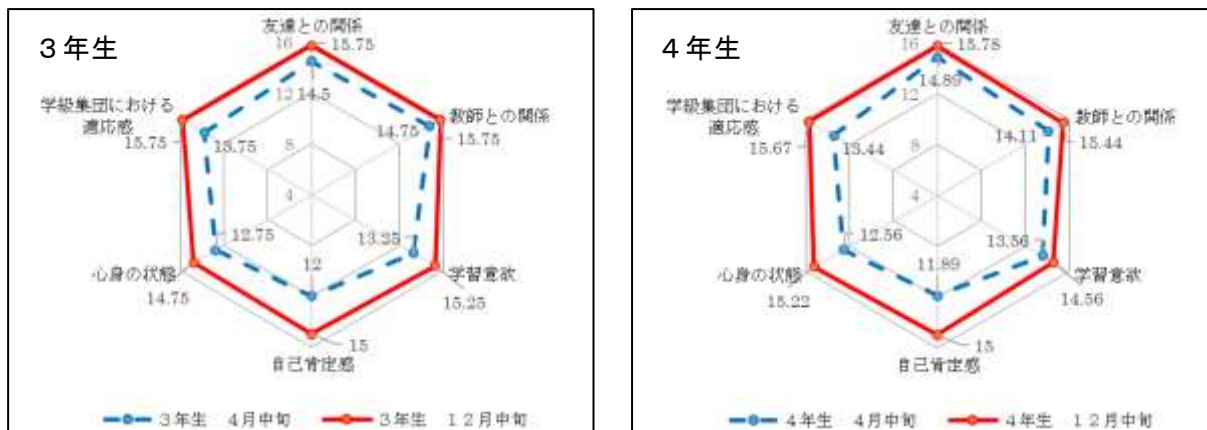
7 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

12月に，3・4年生を対象に，4回目の「学校楽しいーと」を実施した。児童の変容を把握するために，4月と12月の結果をグラフに示した(次頁表3)。両学年ともに，全6観点において数値が上昇している。特に自己肯定感においては，3年生が3.00ポイント，4年生が3.11ポイント向上し，大きな成果が見られた。また，児童の2学期の振り返りの記述内容からも，自己肯定感や自己有用感の高まりが感じられるものが多々あった(次頁表4)。自分の成長に気づき，自分

のよさを大切にできるようになったことも素晴らしいが、友達や学級のよさを認め合うことができる姿に、大きな成長を感じた。

本研究において、「一人一人が学級への所属感を深められる環境づくり」に取り組んだことで、安心して学習できる環境ができ、更に「授業における個別最適な学びと協働的な学びの充実」によって、児童の自己肯定感と自己有用感を育むことができた。



【表3 「学校楽しいーと」で見られた変容】

3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が4人から13人になって、みんなで力を合わせてがんばるのが楽しい。 ・さい高の3・4年生だと思う。 ・4年生がいいところをほめてくれるから、うれしくなることがいっぱいあった。 ・教室にいと、みんながいるから楽しい。
4年生	<ul style="list-style-type: none"> ・国語のときに、自分たちで勉強を進められるようになった。すごいと思う。 ・分からないことも、まずはがんばって考えるようになった。 ・こまったときに、たよれる友達ができた。最高の3・4年生になっている。 ・運動会で、1・2年生のお手本になれた。みんなでがんばったのがよかった。

【表4 2学期の振り返り(一部抜粋)】

(2) 今後の課題

- △ 一人一人の実態を細やかに把握するために「学校楽しいーと」を4回実施した(5回目は2月に実施予定)。4回実施したことで、児童の実態を把握する機会は増えたが、得たことを学級経営に生かせないこともあった。
- △ 今年度の前半は、何事も学級全員で頑張ることを大切にしてきた。3学期は、一人で頑張る場面の工夫に取り組み、一人で粘り強く課題に向き合う力を育みたい。
- △ 授業においては、個別最適な学びと協働的な学びを意識することはできたが、今後は各教科の特性や見方・考え方との両輪で教材研究に取り組み、指導改善を図りたい。
- △ 保護者の方に向けて、毎週の学級通信で児童の成長やよさを伝え続けてきたが、児童が保護者の方に褒めてもらったり、認めてもらったりする機会を積極的に増やす大切さを改めて感じた。今後も、保護者の方とよりよい連携を図ることを大切にしたい。

8 おわりに

複式学級という新しい環境で、児童にとって大変なこともあったとは思いますが、前向きに仲間と楽しく進み続け、大きく成長してきた児童には感謝の気持ちでいっぱいである。学級目標である「最高の3・4年生」のゴールに向かって、13人の児童と一緒に何事にも挑戦し、成長し続けたい。